

平成28年度 千葉県支部行事

講演会&父母交流会が開催されました

● 講演会：演題「実用的なロボットシステムの開発」

東京理科大学工学部 機械工学科 小林 宏 教授

12月3日（土）東京理科大学葛飾キャンパスにて、平成28年度こうよう会千葉県支部行事「講演会&父母交流会」が行われました。師走の忙しい時期にもかかわらず、37世帯41名の会員の皆様に出席くださいました。

小林先生といえば、介護や物流の現場で活用が期待される「マッスルスーツ」の研究・開発等で有名です。介護を身近に感じる方や、お仕事で医療や介護に携わっていらっしゃる方々が多く参加されていたようです。1時間半にわたる講演を通して、小林先生がずっと貫いてこられた「人の役に立つものを作りたい」という熱意がひしひしと伝わってきました。先生はチューリッヒで人工知能について研究をされましたが、「生きている間に人間同様の知能はできない」と判断され、装着型の筋力補助装置の開発へと転換されたそうです。体への装着はリスクが高くて企業が参加しにくい為、ご自身でベンチャーを創業して製品化されました。先生の実践は、小学校の国語の教科書にも「ゆめのロボットをつくる」というタイトルで掲載されているそうです。

講演を聞くまでは、「マッスルスーツ＝介護現場での利用」というイメージが大きかったのですが、先生のお話を聞いて「リハビリ」にも活用されていることがわかると「マッスルスーツ」存在がグッと身近なものになり、「病院には導入されているのですか」「近所のスポーツクラブにおいてほしい」「個人で購入できないのでしょうか」「マッスルスーツによるリハビリは医療行為になるのですか」などという要望や質問の声があがりました。「マッスルスーツ」の体験コーナーも人気で、体が硬い、腰痛があるなどの悩みのある方が積極的に体験されていました。自力では持ち上げることができない荷物も「マッスルスーツ」を装着すると軽々と持ち上げられたり、「マッスルスーツ」を着て簡単なエクササイズをすると、体験前よりも体が柔らかくなっているのを実感したりしました。「マッスルスーツ」の素晴らしいところは、装着することによって筋力が増大したような効果が得られることはもちろん、「マッスルスーツ」の着用により姿勢がよくなったり、今までできなかった動作ができるようになったりして、脱着後もその効果が持続するという事です。

小林先生の「人の役に立つものを作りたい」という思いはまだまだ続き、その研究も排せつや嚥下、搾乳の分野まで広がっているようです。私たちの世代が高齢者になったときは、小林先生の研究のおかげで何歳になっても自立した生活を送れるかもしれないという希望がもてました。



← 自力では持ち上がらなかった荷物もマッスルスーツを着用すると軽々と持ち上がり、びっくりしました。

● 父母交流会

講演会終了後、学生食堂で父母交流会を行い、小林先生と、41名の会員の皆様に参加をしていただきました。夕方からの交流会という事もあり、千葉県支部としては初めての試みとしてワインやビールもご用意させていただきました。木村支部長の挨拶、小林先生の乾杯のご発声を受け、楽しいひと時を過ごしました。講演会では希望者全員にマッスルスーツの体験ができなかったもので、小林先生の計らいで、交流会中も体験をさせていただきました。一人一人に丁寧に説明をしてくださる小林先生を拝見して、本当に人の為になる研究を愛しているのだなあと感じ入りました。先生には飲み物やお食事をゆっくり楽しんでいただくことができず申し訳なかったのですが、そのあとご自宅で夕食を作ってお子様たちと一緒に召し上がるとのことでした。研究者としてだけでなく、家庭人としても充実されている小林先生の一面にも触れ、この素晴らしいお人柄が先生の研究を支えていらっしゃるのだと実感し、参加者一同すっかり小林先生のファンになってしまいました。



● 講演会&交流会を終えて

講演会、父母交流会共に楽しくて有意義なものでした。参加された方のアンケートからもご満足いただけたことがわかります。千葉県支部としては今後も会員の皆様に喜んでいただける催しを企画してまいりたいと思います。今回少し残念だったのは、講演会、交流会とも、当日欠席の方がやや多かったことです。原因を分析し、次回に向けて改善に努めたいと思います。

最後になりますが、お忙しい中、講演を引き受けて下さった小林先生、準備の段階から当日までお世話になりました校友・父母支援課の皆様、そして当日参加して下さった会員の皆様、本当にありがとうございました。役員一同感謝の気持ちで一杯です。今後ともよろしくお願いいたします。

